

講演『高齢者の自立支援・ 重度化防止に対する取り組みについて』

講師 大阪府介護予防活動強化推進事業アドバイザー
公益社団法人大阪府理学療法士会 中村 昌司氏



低栄養状態で回復期リハビリテーション（以下：リハ）病院に入院した脳卒中高齢患者に対し、管理栄養士が理学療法士等とともにリハの計画作成時に参画し、リハの実施に併せて個別に栄養管理を行うことで約9割の患者で栄養状態が改善した。また、専従管理栄養士が1名以上配置されている回復期リハ病院の入院患者は、1名未満の回復期リハ病院の入院患者と比較して、退院時の体重・BMI 変化量及びFIM（日常生活動作の指標）総得点が有意に高値であった。多職種が連携して課題に取り組むことの重要性を学んだと同時に、回復期リハ病院への専従管理栄養士配置の必要性を考えさせられた。

後半は、高齢者の自立支援の促進を目指す『地域ケア個別会議』と『通所型サービスC』の事業の概要と実際の取り組み内容を紹介していただいた。

会議における管理栄養士の役割には栄養に関

する情報整理や食事の困りごと解決、必要なサービスの助言・提案、重症化や低栄養の予防がある。

情報源は5つの書類（基本情報、基本チェックリスト、生活機能評価、介護予防サービス支援計画書、サービス事業所アセスメント計画）からなる。掃除ができていないと本人が回答していても実際には整理されている場合もあり本当の暮らしぶりはみえにくい、本人と本人を取り巻く人々の力を引き出し、最適な状態を目指すために的確なアセスメントが重要である。

会議では管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、市役所職員等がそれぞれの立場から助言を行う。助言を受けた事例提供者が実現可能で具体的な助言をしていくことが重要となる。

対象者がしたいこと、いまできていることを続けられるよう支援していくためには、運動・栄養・口腔等に関して幅広い知識が必要になる。多職種が協働して支援していくことが重要である。

（文責 地活 堀 ひろみ）

賛助会員 PR コーナー

株式会社アルファリフォーム

弊社は大阪市生野区に所在します、1997年創業の株式会社アルファリフォームと申します。今年で満26年目を迎え、27年目に入りました。日頃からの皆様のご愛顧にとっても感謝致しております。

弊社は、お客様が想像されている仕上がり以上の感動をして頂ける様なリフォームのご提供ができればと思い、「アルファリフォーム」という屋号にしました。網戸張替や水道パッキンの取替、鍵の交換など小さな工事から水廻り設備（キッチン・お風呂・洗面所・トイレ・給湯器など）取替、間取りの変更などリフォームの事なら何でもお気軽にご一報ください。

皆様のお役立てが出来ます様精一杯頑張ります。末永くよろしくお願い致します。